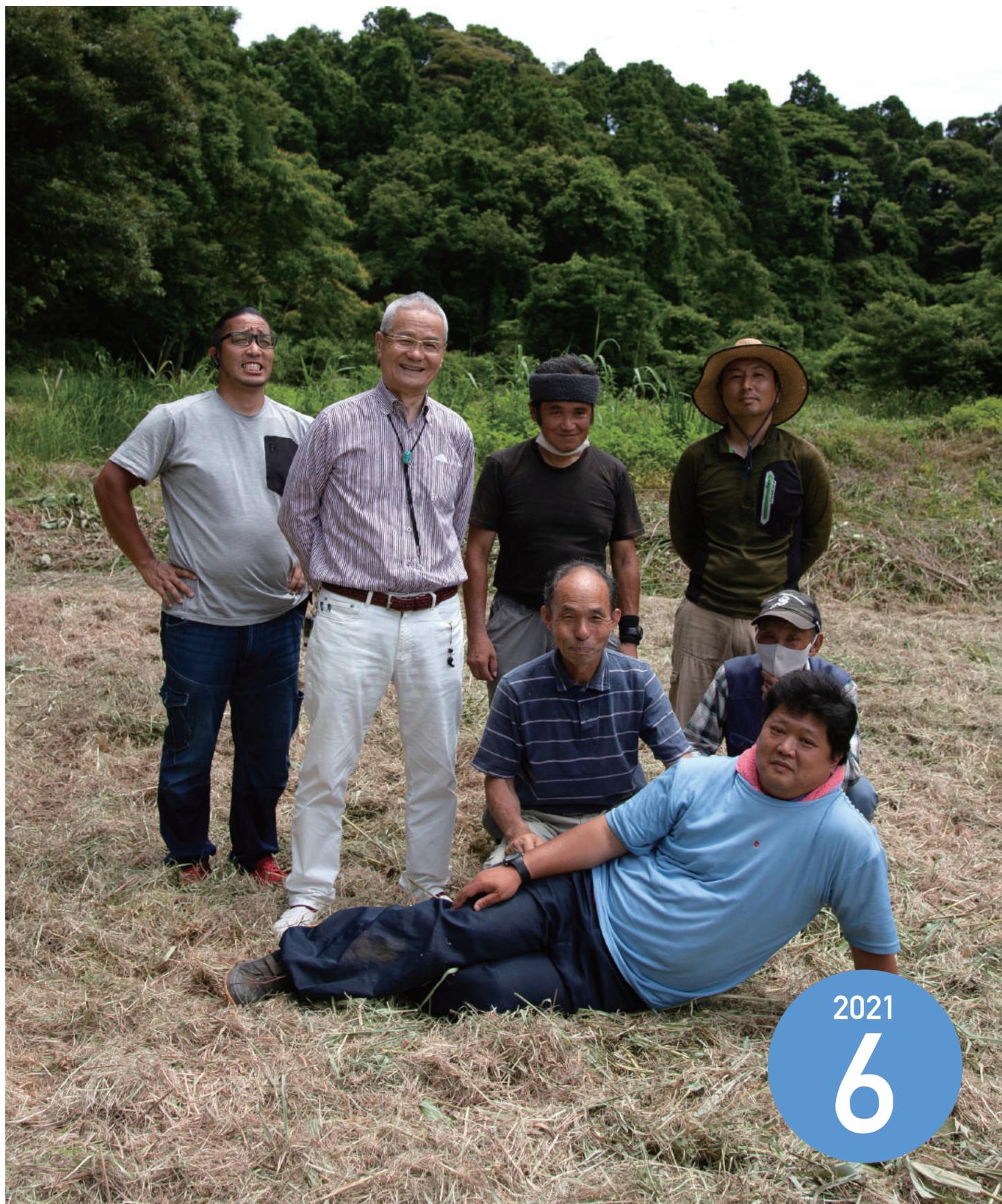


# どっかい生きてます!



2021  
6

巻頭言

# MESSAGE from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

## 幼少時の飢餓体験が 今も私のエネルギーに



地元で熱心に潮騒JTCを応援してくれている保護司の石津さんと

私が年老いたせいなのか、今の事よりも子供の頃の夢をよく見ます。本欄でも何度か触れてきましたが、私のエネルギーの原点には幼少時の「飢え」と呼ぶべき原体験があります。私が2歳になる前に父は南方戦線で戦死し、若くして戦争未亡人となった母は、兄と弟の私を育てられずに再婚しました。幼くして私は里子(養子)に出され、貧困家庭だった養母の下で育ちました。今で言えば虐待になるような養母の理不尽な仕打ちに耐え、とにかくご飯を腹いっぱい食べたいという飢餓感に苦しみました。同時に、精神的な飢餓感も私の人生に暗い影を落としました。実母に対する愛情の飢え、失われた家族への郷愁、誰一人として周囲に味方がいないという絶望的な孤独感…、「もらいっこ」として理不尽なじめにも遭い、小学低学年で自殺一歩手前まで追い込まれました。希望のない日々にあって、我ながら心が凍てついた幼年期をよく生き延びたものだと思います。

どうにかして幼少期を潜り抜けたものの、少年となった私の心はすっかり荒廃していました。思うに任せない人生を恨み、社会を敵として自分のアイデンティティーを築くほかありません。頼れるのは、けんかに負けない腕っぷしの強さと、怖いもの知らずの向こう見ずな男気でした。不良仲間と群れることで鍛えられ、リーダーとして頭角を現すようになり、自分が信じた任侠道をひたすら突っ走ります。でも運命とは皮肉なもので、自分を拾い上げてくれたはずのアウトロー世界にも大きな落とし穴が待ち受けていました。覚醒剤とアルコールの魔の手です。結局はミイラ取りがミイラになり、60歳まで依存症に苦しむ破滅人生でした。薬物も酒も結局は、私の原点にある孤独と孤立を埋め合わせてはくれませ

んでした。でも、私と同じように飢餓体験を経ながらも健全に、前向きな人生を歩んだ方もおられますから、私は自分のマイナス人生を正当化できません。

幸いにも依存症を克服し、回復人生を歩めるようになって冷静に自分を振り返るようになって、私は少年時代に自分を見つめる術を身に付けられなかったことに気づきました。自分の問題と向き合って分かったことは、教育の重要性でした。そのため、「60の手習い」で夜間高校を卒業し、今は「70の手習い」で大学の通信制で勉強しています。ものの見方も随分と視野が広がりました。加えて自分の身の丈に合った表現手段として、俳句という短詩型文学の世界にも救われました。俳句によって自分を掘り下げることができ、回復の下支えになっています。また、幼少時の飢餓体験から「子ども食堂」の運営にも乗り出し、飢餓と孤食、孤独に苦しむ子供たちやお年寄りの支援にも手を差し伸べています。

まだまだ、私の内側からは「あれもこれも…」と制度のはざままで苦しむ人たちへの社会的な支援活動への熱い思いが湧き上がってきます。やはり幼少時の飢餓感が今も活動のエネルギーとなっているようです。なので私の人生の閉じ方の理想は、仲間たちの中でミーティング中に息を引き取ることです。仲間の話に耳を傾けながら、眠るように最期を迎えられれば最高だと思います。幸いにも入寮者とともに新型コロナウイルスのワクチン接種を受けることができました。我がハイパーパワーは「今しばらく命ある限り頑張れ!」と私を励ましてくれているようです。

(法人理事長 栗原 豊)

コロナ禍における施設運営の課題と展望

追加版

連載

下

## 中長期ビジョンで 諸事業の「選択と集中」を

＼期待される／

## 栗原センター長の手腕



遅れていた新型コロナウイルスのワクチン接種が進みつつありますが、出口の見通せないコロナ禍パンデミックの長期化については、まだまだ予断を許さない状況が続いています。より感染力の強いインド型変異ウイルス(デルタ株)への懸念が広がるなか、東京五輪・パラリンピックは制限を加えながら実施されるようです。なんとか第5波の襲来がないように、実効性のある感染対策により今年度後半には収束に向かってほしいと願うばかりです。

コロナ禍が財政力の弱い多くの民間福祉施設の運営に打撃を与えていることは、これまでも述べてきました。とりわけ当事者同士のミーティングを主体とする依存症の回復支援施設では、これまで当たり前だった回復活動そのものが大きく制限を受ける困難な局面にあり、現場ではどうしたらソーシャルディスタンスを保ちながら孤立や孤独化に陥らずに回復プログラムに取り組むかに腐心しています。

潮騒JTCでも外部での自助グループ参加が思うに任せず、仲間たちも施設の中での暮らしが常態化しています。地域の祭りや交流イベント、専門職員やサポーター職員らの研修会参加なども難しく、施設内外での通常プログラム活動の再開がまたれます。幸い潮騒

JTCでは関連施設を多く抱えるメリットを生かして、地味ながらいくつかの自前会場で仲間たちがミーティングを維持しており、徐々に可能な範囲でのプログラムも組まれています。また、前回触れたように逆境を跳ね返して当事者活動の強みを引き出すサポーター職員らの奮闘や組織改革が続いています。

ところでコロナ禍を契機に社会では、国の音頭取りもあってデジタル化によるリモートワークやリモート会議が進行しつつあり、学校でもリモート授業が行われるようになりました。依存症の回復支援でも仲間との絆を補完する新たなコミュニケーションツールとしてオンライン・ミーティングの普及が進み、一定の成果を見せているようです。今後は仲間が一堂に会する旧来型のリアルミーティングと比べ、どの程度の効果があるのか検証が必要になります。とりわけ高齢入寮者の多い潮騒JTCではデジタル技術に疎い人たちが多く、アナログ的な思考や行動様式に目配りしながらの試行錯誤が求められます。

さて、コロナ後を見据えた潮騒JTCの今後については、5月下旬に書面表決で行われたNPO法人潮騒・令和3年度定期総会の監事による付帯意見(10ページ参照)にヒントが見られます。付帯意見では、大規模施設の潮騒JTCはNPOとしては財産規模も大きく、関連法人も含め事業そのものも複数多岐にわたり、地域内でもかなり注目されていることを踏まえ、中長期的な課題として内部統制組織の標準化と外部への積極的な情報開示を促しています。

その意味では今年1月から始まったチーム・プロジェクトの取り組みが期待され、当事者サポーターを含め幅広い人材確保が不可欠です。同時に施設全体を見渡す栗原センター長のコーディネーターとしての役割が一層重要なり、そのサポート態勢も同時に着手することが求められます。また情報発信では、本「潮騒通信」の持つ機能の充実と、これまで後手に回っていたウェブ環境を生かした取り組みの拡充が急がれます。

時代のニーズを受ける形で必然的に大規模化した潮騒JTCですが、コロナ禍でアルコール依存症が増えている状況などを反映してか、入寮者は前年度よりも増えています。付帯意見をヒントに、中長期のビジョンを持った諸事業の「選択と集中」を進める時期を迎えているようです。損得勘定を優先した選別や効率性の論理から弾かれた居場所のない人たちを、民間の受け皿として潮騒JTCがどこまで安心安全に受け入れられるか、正念場となりそうです。(終わり)

## 谷津田の自然を生かし地域交流の拠点に

新たなプロジェクト構想

# ホタルの里



初夏から夏場に掛けて潮騒 JTC 農業隊は、自分たちのホームである潮騒農場での農作業のほか、支援者からの要請などを受けて居宅や農地、山林に生い茂る雑草・雑木、竹やぶの除去・除草作業などで大忙しの毎日です。このうち豊里地区山之上集落にある小規模な谷津田の潮騒水田は、7～8月には夜にホタルが飛び交う、人知れない“名所”です。谷津田の奥にある一部水田は潮騒 JTC が支援者から譲渡を受け、農業隊が地道な整備作業に力を入れています。

山之上谷津田は、かつて貴重な湧水と豊かな生態系に恵まれたホタルの生息地でした。しかし、諸事情から土地改良事業が行われず、人の手も入らなかったためにすっかり荒れ果てていました。このため子供を含む地域住民が 2006 年頃から、自然保護活動で知られる認定 NPO 法人アサザ基金(飯島博代表、牛久市)の協力によりボランティアで自然保護活動に乗り出し、谷津田を「ホ

タルの里」として見事に再生させました。今も水路にはホタルの餌となるカワニナがたくさん生息し、いくつかの湧水があります。

約 4 年前にそうした意義深い水田の一部を入手した縁もあって、潮騒 JTC ではこの小規模な谷津田を拠点にして「ホタルの里」事業をさらに飛躍させようと、栗原豊センター長の肝入りで新たな地域起こしプロジェクトを構想しています。今後数年の計画スパンで、潮騒 JTC の真骨頂である豊富なマンパワーを生かしながら基本計画を策定し、多角的な視点から実現の可能性を模索していく予定です。

今のところプロジェクトの柱となるのは、①自然保護による豊かな生態系の維持 ②ホタルをはじめ多様な生き物を観賞できる安全安心な空間づくり ③車が入れるような進入路の本格整備 ④体験型農業による地域交流の拠点の一つに ⑤急斜面を平地にしたキャンプ場など



の運営 ⑥趣旨に賛同してくれる多様な市民活動団体の参加を求める ーなどを構想しています。視点を変えれば、自然を生かした、子供や家族が触れ合える新たな居場所づくりへのチャレンジでもあります。

この時期、農業隊メンバーは田んぼのあぜ道や急斜面に生い茂るやぶの手入れ、除草、雑木伐採など地道な作業に汗を流しています。時には重機を入れて少しずつ道路や側溝の整備もしていますが、まずは狭い農道の拡幅整備が大仕事です。さらに谷津田を囲む急斜面の山林を平坦にならす大規模工事も必要になりますが、ここは車の駐車スペースやキャンプ場として利用できます。田んぼは水はけを良くするために暗渠排水を整備し、都会の子供たちが安全安心に田植えや稲刈りが体験できるようにする方向が考えられます。

栗原センター長は「谷津田・ホテルの里プロジェクト」(仮称)の夢をこう語りますー。

「私が子供の頃は自然そのものが遊び相手であり、豊かな遊び場だった。知恵と工夫で楽しい遊びが無限大に広がった。それが今は、子供たちのケガを恐れて、必要な自然体験が遠ざけられている。でも人間だって自然の一部なのだから、自然の怖さやありがた味を肌で感じ体験から学ぶ方がいい。実際、潮騒と協力関係にある地元保育園では自然体験型保育に力を入れ、まさに“大自然が子供を育てる”を実証している。計画地は結構広く、いろんな可能性が考えられる。子供たちを巻き込んだ地域交流、地域貢献プロジェクトにしたい」

【谷津田】山林の谷間の湿地にある棚状の田んぼを言う。大型の流入河川のない霞ヶ浦・北浦では、谷津田の一つひとつが大切な水源となり、水源地の自然再生を促している。様々な環境で成り立ち、集落住民の暮らしを支えるとともに、多様な生物を育む自然の宝庫でもある。

# お酒で失った過去から 新しく生き直したい

vol.02 シンジ回復期



## クリニックのデイケアで ミーティングに

そのクリニックに行くと、診察して1分もしない会話の中でドクターから「あなたはアルコール依存症です」と言われ、初めて自分の診断名を告知されました。その時の私は「自分がアル中?マジで!?!」という気持ちと、「やっぱ病気かぁ」というホッとした気持ちと半々でした。

診察が終わり、待合室に男のスタッフが近づいてきて、いきなり「明日からデイケアに来てください」と言われて、びっくりしました。私が「一週間後から行きます」と言うと、そのスタッフは「仕事してないんだから明日から来なさい!」と命令調で言われたので、仕方なく「はい」と返事し、次の日からデイケアに通いました。

私の依存症回復への取り組みは、まずはミーティングが自分にとって一番の出会いなのかな、と今では思っています。デイケアに通所している人たちで輪になって座り、一人ひとり自分の話をしていく中で、私の番になりました。最初は何を話せばいいのかわかりませんでした。それでも恥ずかしさを隠して、なんとか話を1時間のミーティングが終わりました。でも、その時はこのミーティングに何の意味があるのか、少しもわかりませんでした。

デイケアに通い、約1カ月が過ぎてミーティングにも慣れてきたころ、今度は女性のスタッフから、「AAっていう自助会があるから行ってみませんか?」と促されました。どうしようかと迷っていたら、自宅の近所にミーティング会場があることが分かったので、行ってみることにしました。

## AAに参加して クリーン期間が3年に

その会場は日曜日の18時からだというので、8月のまだまだ暑さが残る夕方にドキドキしながら会場に行くと、

AAメンバーの方から「暑い中どうも。中に入って涼んで」とねぎらいを受けました。会場には既に15名くらいの人が出て、空いている席に座ると、「AAは初めて? デイケアメダルはもらったことある?」と聞かれました。

私は「全部が初めてです」と伝えると、ミーティングが始まり、司会者が「今日はワンデイの仲間がいるので、クリーンメダルを渡します」と言い、私にメダルとハンドブックをくれました。それから分かち合いがスタートし、緊張しながらも、なぜか心地よくて、安心感がありました。全くそんな気持ちはなかったのに、帰りにはそのAAグループに入りました。

それから2年間、休まずデイケアに通い、AAにも参加して1日3、4のミーティングを続けました。やがて通院しているクリニックから「仕事をしてもいい」と許可が下り、仕事にも復帰できました。AAでも3年のクリーンパーサーをクリアして、順調な回復の歩みに思えました。

## 500ミリリットル缶ビール1本で 全て失う

朝から夕方まで仕事をして、夕方から夜はAAミーティング…。本当にいい感じでした。でも、好事魔多しです。順調に見えた私の回復の歩みですが、ほんの気の緩み、自分への甘さ、病気の理解度、すべてが足りていないまま、気が付くと500ml缶ビール1本に手が出てしまいました。以後は連続飲酒となり、元の本阿弥です。

この躓きによって、本当に全てを、何もかも無くしました。家族、恋人、仕事、友人、家…、病院にも3回入院、それでも酒が止まらず、見かねた母がなんとか行政の福祉窓口につなげてくれて、ようやく生活保護受給ができ、1人で生きるしかなくなりました。私の底つきでした。

そして、お酒に対して白旗を挙げた私は、潮騒ジョブトレーニングセンターにつながった次第です。(次号につづく)

# 受刑者 からの手紙

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

## 担当がコロナ感染し工場作業から1週間の舎房生活に

前略 「受刑者の手紙」担当窓口のシゲさんから心待ちにしていた手紙が手元に届き、拝読させて頂きました。ありがとうございます。

自分の方ですが、担当先生がコロナに感染してしまったため、工場での作業がこの1週間ほど舎房での生活になり、DVDを観たり本を読んだりの生活になっています。親父(栗原センター長)やシゲさんたちはコロナは大丈夫ですか? 刑務所ですらこれだけ大変なのに、社会はもっと大変じゃないですか? まあ手紙を送ってもらっているうちは大丈夫だと思っていますが、お身体に気を付けて下さい。自分も、いつかかるかわからないので、マスクや手洗い

などして気を付けております。

話は変わりますが、1カ月一回の集会が楽しみでしかたありません。自分が出所の時、シゲさんからの甘い物のプレゼントを楽しみにしております。出所後は、一日一日が大変になってくるので、しっかり導入プログラムをやり、一日も早く社会復帰できるように頑張っていこうと思っております。その時はよろしくお願い致します。シゲさんもくれぐれもお身体に十分気を付けて下さい。乱筆乱文をお許し下さい。また手紙を書きます。草々

(山梨県 Aさん)

## コロナ禍でいまだ施設内には毎日ピリピリした緊張感が

拝啓 暦の上では早や立夏となり、心なしか日差しが明るさを増してまいりました。ご多忙中にも関わらず、わざわざお手紙をどうもありがとうございます。潮騒 JTC の職員やスタッフ、そして入寮されている皆様もワクチン1回目を接種されましたとのこと、まずは一安心ですね。皆様、お元気の様で嬉しく思います。

私も、栗原センター長からの涙があふれ出るほど嬉しいお言葉を賜り、まだまだ長い務めが残っていますが、更に老骨に鞭打って、刑期を全うする最後まで無事に頑張る決意を新たに、日々修行してまいりますので、ご安心ください。

ところでコロナ禍第4波の下で発出された緊急事態宣言もこの31日まで延長されました。まだまだ油断はできませんね。私の受刑施設では比較的多くの感染者が出ているようです。国内最大のクラスターとの声も聞こえてまいりますので、いまだに毎日ピリピリした緊張感が漂っています。そうした不安な状況下ではありますが、潮騒の皆様、夏に向けて更なる飛躍をなされることをご期待申し上げ、今回はこれにてペンを置かせていただきます。敬具

(神奈川県 Oさん)

# しおさい俳壇

6月のお題

あやめ

選者 桐本石見

特選句

残雪の日高は眩し赦免門

ゆたか

ほととぎす色となりぬる筑波嶺

ゆたか

筑波山は関東の歌会の山として古来から名高い。初春の頃はまた芽吹きも揃わないが、時鳥の渡来する頃には山頂まで若葉若葉に彩る。山裾は梨、栗、柿などの果樹園の緑も美しい初夏を彷彿する句。

潮来のあやめ園は昭和二十七年頃から始まり今では五百種百万株もあると言う、あやめは花びらの付け根に綾目があるのでこの名があるが、大方は紫系の楚々とした花。「潮来出島の真菰の中にあやめ咲くとはしほらしや」光圀公の歌を思いう句。

特選句

楚々とさく  
あやめの花の潮来かな

くま

花は大方は女性に例えられ、立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花、などの謂れもありますが、あやめの花にも古風な優しい女性を想います。庭のあやめの花を眺めながら若き日の妻を偲ぶ切々ながらも少しの艶冶を込めた句です。

特選句

亡き妻を  
あやめに偲ぶ小庭かな

ラク

## 俳句へのいざない

### 第十七回 俳句と季語

俳句会へ新しい方も見えられ季語についてお尋ねがありましたので再度ご説明致します。

季は季節のことで、日本には春、夏、秋、冬があり四季とも言います。語は言葉と言う意味でもあり、季語として熟語で「季節の言葉」と言うことです。しかし春夏秋冬だけでは大雑把なのでその季節に咲く花、実る果実、気象現象行事、農耕、漁業、動物など具体的に四季分類して季語として収録しました。それが歳時記と言われる辞書で、何万語も解説してあります。例えば春は桜、夏は海水浴、秋は稲刈り、冬は雪などです。

次に俳句に季語が必要な訳ですが、一つは上記の様に日本人は古来から四季に添って生活してきたので、その四季の趣を愛でる心からでもあり俳句は十七文字と短い詩なので、季語の中に色々な思いを込めるためです。二つ目はスポーツのルールのようなもので、季語を入れた句で互いに鑑賞するわけです。今はメールの時代ですが昔の手紙はその時期に咲く花や気候のことなどかから書き出したものです。六月は庭の菖蒲が雨に美しい…などの手紙を貰えば嬉しく俳（おもかげ）も想像します。季語の心を句にしましょう。



# 今日の秀逸句

花あやめ  
嫁入り舟の潮来かな

しま

潮来は十六洲とも言われ昭和三十年頃まではサツパ舟で嫁入りもした、映画や歌謡の潮来花嫁さんも大ヒットしたが廃れた。昭和六十年頃観光を兼ねて復活し今の賑わいとなった。老いには昔を偲び、若きには記念の嫁入り舟でもある。

孫六人  
祖母の勧めの菖蒲湯へ

えいちゃん

端午の節句に菖蒲湯に入るのは室町時代からあると言われ邪気を払い心身を清める。殊に昔は戦の勝負に掛けて男子の成育を祈念した。孫六人も祖母の心尽くしの菖蒲湯に入ったのか、微笑ましい句。

雨後の  
つゆに濡れぬるあやめかな

みく

花は晴天の日も鮮やかで美しいが曇りや雨に咲くのもまた艶治で美しい。ことに雨のつゆに濡れた菖蒲や花あやめはしとやかな女性を彷彿する句。「佛のそこに佇つまで

花あやめ」石見

あやめ咲く  
北浦尋ぬ日和かな

オノ

北浦は昔は流れ海とも言われ鉾田から潮来の浪逆浦、霞ヶ浦につながる。以前は帆引き船などが漁をして寂びた景でもあった、今は白鳥の飛来地で子供にも人気の所、あやめの花を尋ねるのも旅を思う句。「継ぎはぎの帆曳きの寂びも湖の秋」石見

黄昏は  
丘より来たりホトトギス

アベ

日本は海と山国だがこの鹿島、潮来や利根川沿いの町は丘陵が多く柔らかな如何にも水郷と思えるし暮れもその丘から静かに暮れ染める。時鳥は夕べも鳴くのでややけたたましい声に夕べのを憩う句。

道々に  
コロナ禍忘るホトトギス

一郎

昨年から伝染したコロナ禍は未だ治まらずマスクの毎日もうとうしい。それでも山近くを散歩すると小鳥の声、また夏を告げる時鳥の声にコロナ禍も忘れ癒される。また一句でも浮べば幸せと思う句。

## 佳作

かきつばた植込む隅にそそと咲く	オノ	一株のあやめの咲ける田圃かな	あきら
いくつもの小橋を渡りホトトギス	アベ	背比べどの子一番花あやめ	れいこ
水郷の里は菖蒲の頃にかな	えいちゃん	小雨ふる儚く強く咲くあやめ	めい
小荷物にあやめの押花母の顔	ラク	川辺より花嫁送るあやめかな	えび
綺麗だねあやめの花が咲いている	ニモ	雨の中むらさき濃ゆきあやめかな	いるか
邪気被ふ葉先鋭き菖蒲かな	バズ	美しくあやめの便り見に行かむ	あつちゃん
静寂の中に見渡す花あやめ	チャコ	故郷の池も懐かしあやめかな	ひーちゃん
花あやめ雨にも咲いて綺麗だね	みつちゃん	あやめ咲く潮来祭も待ち遠し	のん
庭園にひっそりと咲くあやめかな	ロコ	梅雨時はあやめの雫美しき	ちあき
あやめ咲き一時心奪われぬ	まこ	旅先の古き城にてあやめみて	ゆーみん



# Clean Birthday シラフを祝おう! クリーンバースデー

アディクト(依存症者)のクリーンタイム(断酒、断薬、断賭博の期間)を祝う  
「クリーン・バースデー」対象者を、コメントを添えて紹介します。



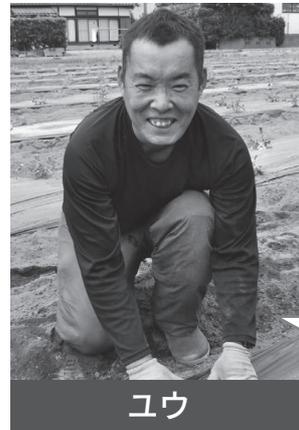
ナルポー

やればできる!!



ノッポ

よく、我慢してやってこれた!



ユウ

これからも、  
クリーンを続けていきたい



ミツオ

これからも頑張ります。皆さんも  
コロナに負けないでください



長さん

人生ガンバろう!前向きに!



アーチャン

一年、なまら早い!  
第一の事は第一に!

## ■ コロナ禍により今年度 NPO 総会は書面表決で実施

特定非営利活動法人・潮騒 JTC の令和 3 年度定期総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から書面表決により行われました。提出議案では、令和 2 年度事業報告に関してコロナ禍により回復プログラムやイベント等の活動が大きく制限されたものの一人の感染者も出さず、この危機を自力で乗り越えようとする施設活性化の動きがサポーター職員らによってスタートしました。こうした逆境の中でも潮騒 JTC に助けを求める動きはかえって増えており、令和 2 年度決算・監査報告では入寮者の増員による総事業費が前年度を上回りました。引き続きコロナ禍の動向が見定めにくいことから令和 3 年度事業計画では新規事業などを抑制しながらも、回復のための基本的なプログラムを着実に推し進め、中断している条件反射制御法の取り組みを強化する活動を盛り込みました。同予算計画も前年度実績を踏まえ慎重に編成されました。

なお、書面表決に先立って所定の手続きによって行われた監査では「適正」に処理されていることが確認され、同報告書では付帯意見として事業の大規模化に伴う内部統制組織の標準化と外部への積極的な情報開示を求めました。栗原理事長は「貴重な意見であり、今後の施設運営についての留意点としていきます」と決意を新たにしていました。

## 6月の行事

- 6月7日 ソフトボール
- 6月8日 フラワーロード草取り
- 6月16日 フラワーロード花植え

## 7月の行事予定

- 7月1日 6月クリーンバースデー
- 7月8日 潮騒俳句会
- 7月31日 7月クリーンバースデー

感染予防対策を徹底して行います。  
状況に応じて中止や延期になる場合があります。

### 献金・献品を頂いた方 (6月15日現在)

- ・ 小川 登志枝 様
- ・ 有限会社柴田工作所  
代表取締役 柴田 宜政 様
- ・ 本多 清峰 様
- ・ 長谷川 トキ子 様
- ・ 池田 啓太郎 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。  
本当にありがとうございました。  
おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございます。  
※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただきます。どうぞご理解のほどをお願いします。

## ごまめの歯ざしり

地元の農村集落で不慣れな「世話人」という役回りをしている。輪番制で10数年に一度ぐらいのスパンで回って来るのだが、末端行政区を実務面から支える重要な役職(使い走り?)だ。受け持つ25世帯の区費(一戸当たり年間1万円)や自衛防災組織の運営費集めのほか、集落鎮守である八幡神社の清掃や各種祭礼を支える労務作業などに駆り出されている。いわば究極のボランティアだが、昔と違って積極的な関わり意識は薄れているのが実情だ ▼行政区の自主運営が難しくなっているのには集落内に専業農家が減り、共同で何かをやるという絆がすたれた事が大きい。それに近所付き合いも濃密さが疎まれ、生活スタイルも大きく変わった。できることなら集落の奉仕作業などを避けて、休日には家族で出掛けたい。曲がりなりにも地元の長老が差配できた以前ならともかく、区長らの役職は名誉職としてもう意味がなくなった。PTAの役員と同じく、どこも後継者難で苦勞しているようだ ▼そうした中で、曲がりなりにも集落住民の絆の維持に力を発揮してきた集落内「神社・氏子コミュニティー」の変化を肌で感じる切実な体験をした。6月末にソーシャルディスタンスで行われた「名越の大祓」神事の準備で各戸を回った時のこと。お札配りと人形紙に家族の名前と生年月日を書いてもらい、祈禱料(初穂料)千円を奉仕してもらうのが任務なのだが、応じてもらえたのは半数に満たなかった。信教の自由であくまで任意だとしても、神社信仰に基づくコミュニティー意識の著しい衰退の現実を改めて思い知った ▼断わった住民曰く、「コロナ禍でもやるの? 神社のカネ儲けだろう!」「うちは神様信じてないから…」 「親の代は付き合ったけど、意味がないのでもうやめる!」等々。そう、もはや付き合いとしても意味を失っているのだ。地域コミュニティーの崩壊の彼方に、殺伐とした風景を見た思いだった。西欧なら、家族や地域を失っても最後にはキリスト教信仰がある。教会コミュニティーが最後の砦となって人間関係を維持できる。ふと潮騒JTCの「仲間が家族だ」とする絆の強さに思いを馳せた。孤立と孤独の時代に、新しいコミュニティーの形になるかもしれないと…。(勝)

※前回の本コラムにあった「優性思想」は「優生思想」の誤りです。ご指摘頂いた常総市のHさんに深く感謝致します。編集制作の大きな励みになります。ありがとうございました。

## 潮騒通信 どっこい生きてます! 2021年6月号

### Contents

- P② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA  
幼少時の飢餓体験が今も私のエネルギーに
- P③ 連載⑤ 中長期ビジョンで諸事業の「選択と集中」を / 期待される栗原センター長の手腕
- P④ 谷津田の自然を生かし地域交流の拠点 新たなプロジェクト構想「ホテルの里」
- P⑥ シンジ回復期 vol.02 お酒で失った過去から新しく生き直したい P⑦ 受刑者からの手紙
- P⑧ しおさい俳壇 6月のお題「あやめ」 P⑩ 5月のクリーンバースデー P⑪ 行事予定 / ごまめの歯ざしり / 献金・献品



■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒 ジョブトレーニングセンター  
理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10  
事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5  
潮騒アディクションビレッジ会館 4 階  
TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール [siosai2010@yahoo.co.jp](mailto:siosai2010@yahoo.co.jp)  
ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

